

大竹伸朗 Shinro Ohtake

1955 東京都生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

2025 「網膜」 Take Ninagawa、東京

「大竹伸朗展 網膜」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2022 「大竹伸朗展」東京国立近代美術館；愛媛県美術館；富山県美術館 – 2023

「銅の時代 1978–2022」銀座蔦屋書店 Ginza Atrium、東京

「Shinro Ohtake」greengrassi、ロンドン

2021 「残景」 Take Ninagawa、東京

2019 「大竹伸朗 1975–1989」 Take Ninagawa、東京

「大竹伸朗 ビル景 1978–2019」熊本市現代美術館；水戸芸術館現代美術ギャラリー

2016 「Shinro Ohtake : Paper-Sight」 シンガポール・タイラー・プリント・インスティ
チュート

「時憶」 Take Ninagawa、東京

「Show-Case project No.3 大竹伸朗 時憶／フィードバック」慶應義塾大学三田キ
ャンパス、東京

2014 「大竹伸朗」パラソルユニット現代美術財団、ロンドン

「既憶景」宮浦ギャラリー六区、直島、香川

2013 「大竹伸朗 '00–'12」 Take Ninagawa、東京

「大竹伸朗：憶速」高松市美術館、香川

「大竹伸朗展 ニューニュー」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

「焼憶展」INAX ライブミュージアム世界のタイル博物館、常滑、愛知

2012 「大竹伸朗」アートソングエ・センター、ソウル

2011 「大竹伸朗展」佐賀町アーカイブ、東京

2010 「#65 2005–2010」 Take Ninagawa、東京

「#65」 Take Ninagawa、東京

2009 「貼貼／Shell & Occupy 4」 Take Ninagawa、東京

2008 「貼貼／Shell & Occupy 3」 Take Ninagawa、東京

「貼貼／Shell & Occupy 2」 Take Ninagawa、東京

TAKE NINAGAWA

- 「貼／Shell & Occupy」Take Ninagawa、東京
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」ウルリー牧場、野付郡、北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」福岡市美術館；広島市現代美術館
- 2006 「ヤバな午後」NADiff、東京
「大竹伸朗と別海展」ウルリー牧場、野付郡、北海道
「大竹伸朗 全景 1955-2006」東京都現代美術館
「旅景 Tabi-kei」ベイスギャラリー、東京
- 2005 「On Paper」ベイスギャラリー、東京
- 2004 「『UK77』写真、絵、貼 1977-78年」ベイスギャラリー、東京
- 2002 「Bldg.」ベイスギャラリー、東京
「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展 1982-2000」ベネッセハウス、直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川
- 2001 「大竹伸朗デジタルワークス 鼠景／マウスケープ」エプソンイメージングギャラリーエプサイト、東京；NADiff、東京
- 2000 「10.08.武満徹 Songs+ 大竹伸朗」NADiff、東京
「ダブ景 大竹伸朗」KPO キリンプラザ、大阪
「大竹伸朗展」ベイスギャラリー、東京
「大竹伸朗 既景 1978-2000」シーズンアートプログラム・ギャラリー、東京
- 1999 「ZYAPA И ORAMA 大竹伸朗展」パルコギャラリー、東京
- 1998 「大竹伸朗展」コモンズ・ギャラリー、ハワイ大学マノア校美術学部、ホノルル
「ネガな夜 大竹伸朗展」西武アート・フォーラム、東京
「新津：あいまいで私が日本 大竹伸朗展」新津市美術館、新潟
- 1997 「大竹伸朗 イン・プリント」NADiff Gallery、東京
「大竹伸朗 Printing /Painting」CCGA 現代グラフィックアートセンター、須賀川市、福島
- 1995 「大竹伸朗 網膜」高島屋コンテンポラリー・アートスペース、東京
「大竹伸朗展 X+Y=LOVE」ストアデイズ、東京
- 1994 「大竹伸朗の新作版画展 カスバの男 モロッコ日記」アール・ヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京
- 1993 「大竹伸朗 網膜」ギャラリー・ところ、東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」西武アート・フォーラム、西武百貨店池袋店、東京；なんばCITYホール、大阪
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 89+91」ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー、西武百貨店池袋店、東京
「大竹伸朗 ECHOS 1-100」アールヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京；カンポア・ドゥ、大阪
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 71-91」ギャラリー・ところ、東京

TAKE NINAGAWA

- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」 寺田倉庫、Space T33、東京
「大竹伸朗 Recent Works 1988-1990」 ギャラリー・ところ、東京
- 1989 「大竹伸朗 America」 アール・ヴィヴァン、西武百貨店池袋店、東京
- 1988 「大竹伸朗 Dreams 展」 ギャラリー・ダン、大阪
「Canvasism—夢と細胞 大竹伸朗新作展」 西武アート・フォーラム、西武百貨店池袋店、東京
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」 佐賀町エキジビット・スペース、東京
「大竹伸朗展 EZMD & ETCHINGS」 ギャラリー・ダン、大阪
「〈倫敦／香港〉1980」 ギャラリー・ダン、大阪
「ロンドン／ホンコン 1980 Part II」 みゆき画廊、東京
- 1986 「ロンドン／ホンコン 1980」 ヒルサイド・ギャラリー、東京
- 1985 未来の日本前衛「大竹伸朗—放浪する言語」、Palazzo Bianco、ジェノヴァ
「大竹伸朗 ペインティング／コラージュ」 Institute of Contemporary Art、ロンドン
- 1984 「大竹伸朗 1983-1984」 ギャラリー・ワタリ、東京
- 1982 「大竹伸朗 個展」 ギャラリー・ワタリ、東京

主なグループ展

- 2026 「Chase a Crooked Shadow: Film Noir as Contemporary Mirror」 The Warehouse、ダラス、テキサス州、アメリカ
「Guggenheim Pop: 1960 to Now」 ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク
「Certainly」 GOLD、香港
- 2025 「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」 国立新美術館、東京
瀬戸内国際芸術祭 2025
「ミネバネ！現代アート タグチアートコレクション」 秋田県立美術館；秋田市立千秋美術館
「トロイメライ」 原美術館 ARC、群馬
「所蔵作品展 MOMAT コレクション」 東京国立近代美術館
「Blumen」 Take Ninagawa、東京
- 2024 「Neither IX: David Lieske and Shinro Ohtake」 Neither、ロンドン
「A Product of Time: 25 Years of TWO x TWO for AIDS and Art」 The Warehouse、ダラス、テキサス州、アメリカ
- 2022 「Neoclassical」 Rodeo、ピレウス、ギリシャ
ホワイトトリエンナーレ 2022 「Pacific Century – E Ho'omau no Moananuiākea」
「オルタナティブ！小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」 3331 Arts Chiyoda、東京
- 2021 「Art/Music わたしたちの創作は音楽とともにある」 世田谷美術館、東京

TAKE NINAGAWA

- 2020 「東京 2020 公式アートポスター展」 東京都現代美術館
- 2019 「Phantom Plane, Cyberpunk in the Year of the Future」 JC Contemporary、大館現代美術館、香港
「MOMAT コレクション」 東京国立近代美術館、東京
「タグチ・アートコレクション 球体のパレット」 北海道立帯広美術館；北海道立釧路芸術館；北海道立函館美術館；札幌芸術の森美術館
瀬戸内国際芸術祭 2019、豊島、香川
「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」 東京都現代美術館
「開館 25 周年 ニュー・ペインティングの時代」 高知県立美術館
- 2018 「バブルラップ:『もの派』があって、その後のアートムーブメントはいきなり『スーパーフラット』になっちゃうのだが、その間、つまりバブルの頃って、またネーミングされてなくて、其処を『バブルラップ』って呼称するといろいろしくりくると思います。特に陶芸の世界も合体するとわかりやすいので、その辺を村上隆のコレクションを展示したりして考察します。」 熊本市現代美術館
第 9 回アジア・パシフィック・トリエンナーレ、ブリスベン、オーストラリア
「Sharjapan: The Poetics of Space」 Al Hamriyah Studios、シャルジャ
「Epoch」 ROH Projects、ジャカルタ
「Flash 1977 / 1989」 ハラミュージアムアーク、群馬
「起点としての 80 年代」 金沢 21 世紀美術館；高松市美術館；静岡市美術館 - 2019
「181 枚の記憶—高松市美術館特別展の歩み—」 高松市美術館、香川
「10th Anniversary」 Take Ninagawa、東京
「21 世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」 平塚市美術館、神奈川
「モダンアート再訪—ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」 横須賀美術館、神奈川；広島市現代美術館；埼玉県立近代美術館；鳥取県立博物館
「開館 40 周年記念展 トラベラー まだ見ぬ地を踏むために」 国立国際美術館、大阪
「現代美術に魅せられて 原俊夫による原美術館コレクション展」 原美術館、東京
- 2017 「In Focus: Contemporary Japan」 ミネアポリス美術館、ミネソタ州、アメリカ
「日本の絵本 100 年の歩み」 ちひろ美術館、東京
「Japanorama 1970 年以降の新しい日本のアート」 ポンピドゥ・センター・メッス、フランス
- 2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか・」 大岡信ことば館、静岡
「所蔵作品展 MOMAT コレクション」 国立近代美術館、東京
「The Keeper」 New Museum、ニューヨーク
「夏・旅・語り—原美術館コレクション」 ハラミュージアムアーク、群馬

TAKE NINAGAWA

- 瀬戸内国際芸術祭 2016
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」バー
ビカンセンター、ロンドン；マンチェスター・アート・ギャラリー - 2017
- 2015 「Books of Asia」 Asia Culture Center、光州
「Duddell's presents: ICA Off-Site: Hong Kongese」 Institute of Contemporary
Art、ロンドン
「An Imprecise Science」 Artspace、シドニー
「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画：コレクション・ビカミング」
東京都現代美術館
- 2014 「開館 20 周年記念 MOT コレクション特別企画：クロニクル 1995—」 東京都現
代美術館
ヨコハマトリエナーレ 2014「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」
- 2013 「5th Anniversary」 Take Ninagawa、東京
第 55 回ヴェネツィア・ビエンナーレ「The Encyclopedic Palace」
瀬戸内国際芸術祭 2013、女木島、香川
「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」 広島市現代美術館
- 2012 ドクメンタ 13「Collapse and Recovery」カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」モスクワ市近代美術館；ハイフ
ア美術館群、イスラエル
- 2010 第 8 回光州ビエンナーレ「10,000 Lives」
「これも自分と認めざるをえない」 21_21 DESIGN SIGHT、東京
瀬戸内国際芸術祭 2010
- 2009 「I Believe 日本の現代美術」 富山県美術館
「MOT コレクション MOT で見る夢」 東京都現代美術館
- 2006 「Fix・Mix・Max! 現代アートのフロントライン [最前線]」 北海道立近代美術館、
札幌
「水はつねに複数で流れる 東野芳明を偲ぶオマージュ展」 ギャラリー TOM、
東京
「直島スタンダード 2」 地中美術館、直島、香川
「開館 25 周年 世界 日本 富山 アートシンフォニー：20 世紀美術の響き」
富山県美術館
「武満徹 Visions in Time」 東京オペラシティアートギャラリー
「収蔵品展 20 抽象の世界—色・かたち・空間：東京オペラシティ コレクション
より」 東京オペラシティアートギャラリー
- 2005 「decade—CCGA と 6 人の作家たち」 CCGA 現代グラフィックアーツセンター、
福島
- 2004 「美しき旅—人生をめぐって」 富山県美術館

TAKE NINAGAWA

- 「再考：近代日本の絵画—美意識の形成と展開・第2部」東京都現代美術館
- 2003 第41回岡山市芸術祭公式プログラム「Love Planet：愛の惑星」
「絵とものがたり すてきなえほん・絵本の教育的効果と芸術性」姫路市立美術館
- 2002 「Love and/or Terror: A Book Arts Exhibitions」アリゾナ大学美術館、ツーソン、アメリカ
「本と美術—20世紀の挿絵本からアーティスト・ブックまで」徳島県立近代美術館
「収蔵品展 2002-I 新収蔵作品展 + 現代絵画入門」広島市現代美術館
竹尾ペーパーショウ 2002「Please：あなたから、よい、たより」スパイラル、東京
- 2001 「本という美術—大正期の装幀から現代のオブジェまで—」うらわ美術館、埼玉
「あるコレクターがみた戦後日本美術」群馬県立近代美術館；愛媛県美術館
「スタンダード展」直島コンテンポラリーアートミュージアム、香川
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」うらわ美術館、埼玉
- 1999 「アート・ジャングル こどもとたんけん」富山県美術館
「日本ゼロ年」水戸芸術館現代美術ギャラリー
「時代の体温 ART/DOMESTIC」世田谷美術館、東京
「現代美術のレッスンI」秋田市立千秋美術館
- 1998 「Connections/Contradictions: Modern and Contemporary Art from Atlanta Collection」マイケルC.カルロス博物館、エモリー大学、アトランタ、ジョージア州、アメリカ
「都築響一 + 大竹伸朗 青山秘宝館」NADiff Gallery、東京
- 1997 「原美術館コレクション展 人間模様」ハラミュージアムアーク、群馬
- 1996 「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗 + ヤマタカ EY ヨ」ザ・ギンザ・アートスペース、東京
「高知県立美術館 [コレクション展] ニュー・ペインティング・コレクションを中心に」高知県立美術館
「20世紀美術の変容」セゾン現代美術館、長野
- 1995 「日本のブックデザイン 1946-95」ギンザ・グラフィック・ギャラリー、東京
- 1994 「600 ソウル国際美術展」国立現代美術館、ソウル
「三木富雄／田中信太郎／大竹伸朗」ギャラリーところ、東京
「ヒロシマ：21世紀へのメッセージ展」熊本県立美術館；大丸ミュージアム梅田、大阪；郡山市立美術館、福島；広島市現代美術館
「断面 1979-1994 原美術館 15周年記念展」ハラミュージアムアーク、群馬
「オープンエア '94 アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」ベネッセハウス、直島コンテンポラリー・アート・ミュージアム、香川

TAKE NINAGAWA

- 「アート・アゲインスト・エイズ・ジャパン アーティストの眼 クリエイターによる写真展」ランドマークホール、神奈川
- 「セゾン現代美術コレクション 戦後日本の絵画—新収蔵品を中心に」セゾン現代美術館、長野
- 「VOCA'94 現代美術の展望：新しい平面の作家たち」上野の森美術館、東京
- 1993 「親と子でみる現代美術：まなぶあそぶ美術の世界」富山県美術館
- 「日本現代彫刻の系譜—収蔵作品による」富山県美術館
- 第1回アジア・パシフィック・トリエンナーレ、ブリスベン、オーストラリア
- 「開館10周年記念特別展 近代日本美術の流れと油井一二コレクション」佐久市立近代美術館、長野
- 1992 「MASK 顔・表情」ギャラリー・TOM、東京
- 「三木富雄／田中信太郎／大竹伸朗」ギャラリー・ルイ・カレ、パリ
- 1991 「Japan Art Today 北欧4カ国巡回記念 現代日本美術の多様展」セゾン現代美術館、長野
- 「キャビネット・オブ・サインズ」テート・ギャラリー、リバプール；Whitechapel Art Gallery、ロンドン；Malmö Kunsthalle、マルメ、スウェーデン - 1992
- 「マンガ／コミック・ストリップ・ブックス・フロム・ジャパン」ポメロイ・パーディ・ギャラリー、ロンドン
- 「開館3周年記念 20世紀・日本の絵画：Modernism and beyond」ふくやま美術館、広島
- 「ハイブリッド・ガーデン 現代美術6人展」ビギ・アート・スペース、京都
- 「アムネスティフリーダム '90s ポスター展」横浜美術館
- 「野生の復権 開館5周年記念展：コレクションからのメッセージ」世田谷美術館、東京
- 1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」ストックホルム文化会館；シャーロットテンブルク美術展会場、コペンハーゲン；ヘルシンキ市立美術館レイキャビク市立美術館 - 1991
- 「幻想の力 日本の近・現代美術から」宮城県美術館
- 「80年代の日本現代美術」Bonn Kunstverein、ボン、ドイツ；ウィーン近代美術館；Bregenzer Festspiele、ブレゲンツ、オーストリア；Frankfurt Kunstverein、フランクフルト - 1991
- 「ファルマコン '90 幕張メッセ現代の美術展」幕張メッセ、千葉
- 「世界の飢えを考えよう 国際美術展」世田谷美術館、東京

TAKE NINAGAWA

- 「コレクション展」原美術館、東京
第1回タイン国際現代美術展「ニュー・ネセシティ」Laing Art Gallery、
ニューカッスル・アポン・タイン、イギリス
「作法の遊戯：90年春・美術の現在」水戸芸術館 現代美術ギャラリー
- 1989 「Alpha Cubic Art Collection」Alpha Cubic Gallery、東京・パリ
「アゲインスト・ネイチャー：80年代の日本現代美術」サンフランシスコ
近代美術館、カルフォルニア州；アクロン美術館、オハイオ州、アメリカ；
MIT リスト視覚芸術センター・ボストン銀行アート・ギャラリー、マサ
チューセッツ州、アメリカ；シアトル美術館；シンシナティ現代美術セン
ター；Grey Art Gallery、ニューヨーク大学；ヒューストン現代美術館、
テキサス州、アメリカ；ICA 名古屋 - 1991
- 1987 「'87 ADC 賞展」G7 ギャラリー、東京；ギンザ・グラフィック・ギャラリ
ー、東京；ザ・ギンザ・アートスペース、東京
「アーティスト 50 人に描かれた現代女性 50 人の肖像展」ザ・ギンザ・ア
ートスペース、東京
- 1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った『本』の展覧会」
Franklin Furnace、ニューヨーク
- 1984 第20回今日の作家'84展「[面]をめぐる表現の現在」横浜市民ギャラ
リー
- 1983 「アンタイトルド」Lawrence Oliver Gallery、フィラデルフィア、ペンシ
ルベニア州、アメリカ
- 1981 「第1回西武美術館版画大賞展」西武美術館、東京
「Art Pop Japan—Tokyo Today」Institute of Contemporary Art、ロンドン
- 1980 「チャイナタウン・ファンタジア展」ラフォーレ・プラザ、東京
- 1979 「θ (シータ)」ヴィレッジ・ギャラリー、西武百貨店池袋店、東京

主なライブ・パフォーマンス

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ 日本ツアー '96」ラフォーレミュー
ジウム原宿、東京
- 1985 「ライブ・ワンズ！ 1985」(with Russell Mills)、オックスフォード近代美
術館、イギリス
- 1980 「クルバ・カポル」(with Bruce C. Gilbert, Graham Lewis and Russell
Mills)、ノートルダム・ホール、ロンドン

TAKE NINAGAWA

主なパブリック・ワーク

- 2021 《熱景 / NETSU-KEI》道後温泉本館、松山、愛媛
- 2019 《覗き岩》パフィオウわじま、愛媛
- 2016 《針工場》豊島、香川
- 2013 《女根 / めこん》女木島、香川
- 2009 《直島銭湯 I ♥ 湯》直島、香川
- 2006 《はいしゃ〈舌上夢 / ボッコン覗〉》直島、香川
- 2000 《北の空に浮かぶカタチ》札幌市生涯学習センター・ちえりあ
- 1994 《シップヤード・ワークス》シリーズ（《切断された船首》《船尾と穴》《船底と穴》《隔壁 I-VII》《箱の上の隔壁 I-II》）直島、香川

受賞、レジデンシー

- 2024 第 65 回毎日芸術賞
- 2015 Creative Workshop program、シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート
- 2014 芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門
- 1995 Cultural Olympiad, Atlanta Committee for Olympic Games、ジョージア州、アメリカ
- 1989 USIA 及びアーティスト・コロニー基金、複数会場、アメリカ

主なコレクション

- ヴィクトリア & アルバート博物館
- 愛媛県美術館
- M+、香港
- クイーンズランド州立美術館 / 近代美術館
- グッゲンハイム美術館
- 公益財団法人福武財団
- 高知県立美術館
- 駒ヶ根高原美術館
- 佐久市立近代美術館
- 札幌市生涯学習総合センター・ちえりあ
- シカゴ美術館
- CCGA 現代グラフィックアートセンター
- セゾン現代美術館

TAKE NINAGAWA

世田谷美術館

高松市美術館

ダラス現代美術館

彫刻の森美術館

東京オペラシティアートギャラリー

東京国立近代美術館

東京都現代美術館

富山県美術館

新津市美術館

ニューヨーク近代美術館

パフィオうわじま

広島市現代美術館

福岡市美術館

原美術館

ふくやま美術館

ベネッセアートサイト直島

ミネアポリス美術館